

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	平成 26 年度第 3 回高松市子ども・子育て支援会議
開催日時	平成 26 年 11 月 6 日(木) 15 時 00 分～17 時 00 分
開催場所	高松市役所 11 階 114 会議室
議 題	(1) 高松市子ども・子育て支援推進計画（案）について (2) 計画策定のための今後のスケジュールについて
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	加野会長、後藤副会長、池畑委員、植松委員、大芝委員、 金崎委員、鈴木委員、樽谷委員、永澤委員、中橋委員、奈良委員、 西岡委員、藤岡委員、三木委員 計 14 人（欠席 岡委員、鎌田委員、橋川委員、田中委員）
傍 聴 者	9 人           （定員 12 人）
担当課および連絡先	子育て支援課子育て企画係 839-2354

### 審議経過および審議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。

#### (1) 高松市子ども・子育て支援推進計画（案）について

高松市子ども・子育て支援推進計画（案）について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

（委員）

概要版の 2 ページ記載の高松市は「子育てしやすいまちだと思える人」の割合について、思える人の割合が相当高いと感じたが、思わない人も 1 割程度いる。平成 31 年度の目標数値の達成を目指すに当たって、高松市はどこに力を入れていくのか。子育てしやすいまちだと思わない理由として、遊び場が少ないことをよく聞くが、どのような対応を考えているのか。

（事務局）

今回の数値目標は、今までに比べ高めに設定している。次回は、アンケート項目を変更するので、数値の上昇が見込まれるほか、計画期間中の施策を展開していく中で、満足度を上げていきたいと考えている。具体的な施策については、今後、新規事業の拡充や既存事業の見直し若しくは拡充の中で進めていきたい。特に、計画案の 23 ページ記載のアンケート調査「子育てをしやすいまちだと思わない理由」及び 22 ページ記載の「保護者が日頃悩んでいること」を参考に事業展開を考えていく中で、数値目標の達成を目指したい。

公園や児童館などの遊び場が少ないという意見が多いことについては、今後開設予定の「高松市こども未来館（仮称）」を始め、放課後児童クラブ及び放課後こども教室の一体的な運用により、子どもの居場所の拡充を目指したい。また、経済的負担の軽減についても要望が多くなっているが、概要版の 4 ページの「取組のポイント」に記載のとおり、子どもの医療費助成事業の対象年齢の引上げ及び第二子以降への上乗せ減免について、取り組む予定である。子どもの居場所と経済的負担の軽減の施策を進める中で、目標数値の達成を目指したい。

## 審議経過および審議結果

(会長)

小学生児童の保護者の「子育てしやすいまちだと思う人、どちらかと言えば思う人」の平成31年度の目標数値は75%としているが、逆に言えば、25%が「思わない、どちらかと言えば思わない」と答えることになる。もう少し目標数値を高くしても達成できるのでは。

(事務局)

平成20年度と平成25年度の「思う人」の割合の上昇率を比べてみると、就学前児童の保護者については、10%以上、小学生児童の保護者については2%弱上昇しており、今後は小学生児童の保護者の満足度を上げていく必要があると思われる。それについては、放課後児童クラブや放課後子ども教室などの施策の実施によって上げていきたいと思う。目標数値については、今までの傾向を見ると75%が妥当だと考えている。

(委員)

数値目標について、アンケート調査は中学生の保護者も対象だと思うが、就学前や小学生児童の保護者の満足度と同じような傾向があるのか。

(事務局)

数値目標の区分は、「就学前児童の保護者」と「小学生児童の保護者」の2つとなっている。アンケート調査については、就学前児童及び小学生児童の保護者に対する調査と、中学生及び高校生本人に対する調査をしている。中学生の保護者に対しては実施していない。国の指針では、就学前児童の保護者のみを対象とすれば良いとなっていたが、本市では小学生児童の保護者及び中高生本人も対象に加えて実施した。中学生の保護者に対しては実施していないので御了承いただきたい。

(委員)

平成31年度の目標数値について、就学前児童の保護者の割合について80%はふさわしい数値だと思う。本年度は、私立幼稚園就園費補助事業など助成が増えたので満足度が上がっていると感じている。

(事務局)

目標数値の達成度を見る、また次回計画の参考データの収集のために計画策定の1年前にアンケート調査を実施している。今回の計画期間においては、数値目標の達成度合いを見るため、計画期間内で何回か調査を実施し、今行っている施策が正しいのかを見極めながら事業展開を行いたいと考えている。

(委員)

高松市は5年前の全国アンケート調査により、住みよいまちについてのランキングで2位になったが、去年は22位まで落ちている。そのような結果を鑑みて目標数値を設定しているのか。また、そのランキングの向上も目指していくのか。

また、教育・保育の質の向上について記載しているが、向上にあたって一番大切なのは保育士であるのに、保育士の確保についての記載がない。

(事務局)

NPO法人エガリテ大手前による独自の指標を元にしたランキングとなっている。子育て支援策に関する全般的な指標を元にしたものではないので、必ずしも全自治体がこれを目標に施策を進めているわけではないと思う。ただちに、これだけをもって計画に反映するというわけにはいかないが、過去に2位という高い順位をいただいたので、本計画の施策の推進によって、順位が上がれば良いと思う。

保育士の処遇については、本計画に記載することはなじまないのではないかと考えている。しかし、保育の質の向上については、市独自の研修費の助成や、様々な教育関係を集めた研修会を行う中で、保育士の資質の向上により、教育環

審議経過および審議結果

境の向上を目指していきたいと考えている。幼保連携事業についても、私立施設を含めて連携を図ってまいりたい。

(会長)

国が合計特殊出生率の目標値を定めるなど、国の計画との整合性も鑑みる必要があると思うがどうか。

(事務局)

国が人口減少対策として合計特殊出生率について1.8を目指すという話がでていますが、これが正式に確定し計画が策定されれば、各都道府県を通じて各自治体でも事業展開などを求められることになると思う。また、確定すれば、高松市ではそれを上回るような目標を立てて、施策を考えていかなければならないと思う。

(会長)

国の政策に振り回されてもいけないと思う。

(委員)

概要版の5ページに、「子どもにとって安全・安心な環境づくり」の事業に「マタニティバッジ・マタニティカードの配布」があるが、民間保育所では、マタニティへの支援事業を行っている。市の事業でないと、記載できないのか。載せてもらえると、事業の周知につながるのだから助かる。

(事務局)

子どもを産んでからのふれあいの場というのは整えられていると思う。しかし、妊娠中の母親に対しては、健診などの施策は充実していても、相談やふれあいについての施策は手薄になっている。大切どころだと思うので、市としてもこのような情報は積極的に取り入れ、連携が取れる部分があれば考えていきたいと思う。

計画に記載するかどうかは、他の事業との兼ね合いも含めて検討したい。

(会長)

市が市内の全ての事業を把握することは難しいと思うので、計画に記載する文章などを例を挙げて提案してくださると分かりやすいと思う。

(委員)

概要版の6ページ記載の認定区分、対象者、利用先の区分表について、2号認定(学校教育の希望強)の対象者の説明として、満3歳以上で、幼稚園の利用を希望するが、「保育の必要な事由」に該当する子ども、というのが正しいのではないか。また、利用先として幼稚園と認定こども園の区別が同じ枠内の記載されており区別がないのは誤っているのではないか。1号認定の利用先は幼稚園、2号認定(学校教育の希望強)の利用先は認定こども園になるのでは。

(会長)

この表は、高松市が独自に作成したものなのか。国の基準に基づき作成したものなのか。

(事務局)

国も同じ分け方をしている。平成27年度から、保育所を利用できるのは、保育の必要な事由がある方となる。保育の必要な事由があるが、幼稚園の利用を希望する子どもが2号認定(学校教育の希望強)であり、利用先は、認定こども園のほかに、幼稚園も利用できる。現在も、両親が共働きで幼稚園に通っている子どもがいるが、そういったケースが2号認定(学校教育の希望強)に当てはまる。

(委員)

本計画は就学前や小学生向けの支援が中心となっていると思うが、中学生の子育てに悩んでいる保護者も多くいる。国の指針では調査は必要ないとしているということだが、可能なら、高松市として、中高生への保護者に対してもアンケート

## 審議経過および審議結果

ト調査を実施していただきたい。調査結果を中学校教育にも役立てていきたいと思う。

また、発達障がいがあつて悩んでいる保護者が10%程度おり、特に高校進学に悩んでいる。能力があるにもかかわらず、高校に行けないケースがあるので、進学への支援が必要だと思う。専門性は高いのに自分の得意なことしかできない生徒への対応を考えて欲しい。

(事務局)

中高生の保護者へのアンケート調査実施については、5年後、国からの基準が示されれば、実施したいと思う。満足度の調査に関しては、2年ごとに行うことも検討しているので、その際に中高生の保護者に対しての実施も考えていきたい。

高松市の教育振興基本計画では、小学3年生、小学5年生及び中学2年生の保護者に対し、教育という観点に絞った調査にはなるが、実施する方向で現在進めている。発達障がい児に対しては、各小・中学校には特別支援コーディネーターを置いて支援している。県の教育委員会が担当している高松地域特別支援連携協議会では、就学前や小中学校の関係者のほかに、市内高等学校の特別支援教育コーディネーターも参加しており、特別支援推進のための協議を行っている。このような取組を今後さらに推進することで、高等学校においても理解が進んでいくと認識している。

(委員)

計画の推進にあたって、横の連携を強くともってもらいたい。計画案の8ページに「(1)計画を推進する庁内体制の整備」があるが、責任の明確化を行い、どの部局でも関連しているという意識のもとで取り組んでももらいたい。

地方から少子化が進み、また子どもを産める年代の女性が都市部へ流出していく中で、市の魅力をどう残し生かしていくかが焦点となるが、本計画でも、高松市独自の特徴を生かし、「子どもを産むなら高松市、子どもを育てるなら高松市」といえるようなインパクトがあるものを計画の中に盛り込めたら良いと思う。高松市の年長児童の赤ちゃん出会い・ふれあい交流事業は、今年は5校の中学校で実施され、年々拡充している。このような事業は、都会で実施するのは難しく高松市だからこそ行える事業であると思う。教育委員会とも連携をとりながら、さらに広げて欲しい。

子育て家庭への支援を考える上で、企業への意識改革は非常に大事だと思う。計画案の104ページと105ページに、ワーク・ライフ・バランスの推進について記載されているが、横の連携を深めて、企業の意識改革に取り組んでももらいたい。また、105ページの基本方針に「仕事で忙しい父親が」という記載があるが、父親だけが仕事で忙しいわけではない。仕事をしている母親の視点が抜けていると思う。

香川県内の中小企業で働いている若い女性が、出産・育児のために仕事をやめることがないように、先輩社員が相談に乗りアドバイスができるよう、研修会を行っている。国の事業ということもあり、あまり地域にフィードバックできていないと感じている。このような取組について、連携することで高松市でも続けていき、子育て家庭で育児と仕事を両立しながら子どもに向き合える環境づくりができれば良いと思う。

(事務局)

ふれあい体験について、当初は子育て家庭への支援として行っていたが、進めていくにつれて中学生に対する次代の親への教育や道徳教育とも密接に関連している事業であることが分かってきたので、今後、教育委員会と連携を図りながらこのような事業の大切さを訴え、広げていきたいと思う。

国の少子化危機突破のための緊急対策の中でも、特に働き方改革の強化が重要

### 審議経過および審議結果

だと認識している。ワーク・ライフ・バランスについては、高松市でも重要視しているところであり、担当課である子育て支援課を始め、男女共同参画推進室、産業振興課と連携を取りながら進めていきたい。

(会長)

11月26日に第4回子ども・子育て支援会議があるが、第3部の審議が中心となり、第1部・第2部は今回で最後ということか。

(事務局)

次回会議は第3部の審議が中心となるが、今回の会議を踏まえて第1部・第2部について御意見があれば、次回に持ち越しても構わない。

(委員)

今年から、企業の育児休暇について、男性も給与付で取得できるときいたが、計画に記載するべきではないか。

(事務局)

企業に対しての育児休業期間中の給与の率が上乘せになるという法改革について、国の制度の説明になるので、今回の計画の中では、記載することは難しいが、入れられるところがあるかどうかは検証したい。

(委員)

発達障がい児への対応について、発達障がい児は、得意なことと苦手なことに差があり、苦手なことは身に付けづらいという特徴がある。学校側にはそのようなことを配慮して受け入れて欲しいと思う。そのような児童は、中高生になると自分の興味があるもの以外のものに取り組むのは難しいのが現状であるので、幼児期の体験学習が重要であると思う。概要版の3ページの「配慮を要する子どもと保護者への支援」の中にある「発達障がい児等支援事業」「特別支援教育推進事業」また、概要版での記載はないが、市の取り組んでいる「障がい児保育事業」を今後さらに充実して欲しい。

その他、委員から特に意見はなく、以上をもって、本日の会議を終了することとした。

以 上